

陸奥湾マダラの漁獲動向について

(地独) 青森県産業技術センター水産総合研究所

この冬、陸奥湾海域では 2 月末の時点でマダラの漁獲量が 1999 年漁期以降で最も多い 456 トンとなり、前年漁期比 335%でした(下図)。

水産総合研究所で脇野沢村漁協のマダラ漁獲物の全長測定を行った結果、今漁期は 70cm～75cm が漁獲の主体であり、主に 4 歳魚(2011 年生まれ)と 5 歳魚(2010 年生まれ)であったと考えられました。また、北海道大学高津教授の調査結果によると、陸奥湾では 2010 年、2011 年生まれのマダラ稚魚個体数が多いことがわかっています(下図)。これらのことから今漁期の豊漁は、2010 年、2011 年生まれが多く生き残り成長できたことに加え、この冬の産卵時期の陸奥湾の水温がマダラの回帰に適した水温であったといった条件が揃った結果と考えられました。

漁獲量、稚魚豊度とも年によって大きく変動しているため、今後も漁獲動向と稚魚発生、水温環境のモニタリングを継続していきます。

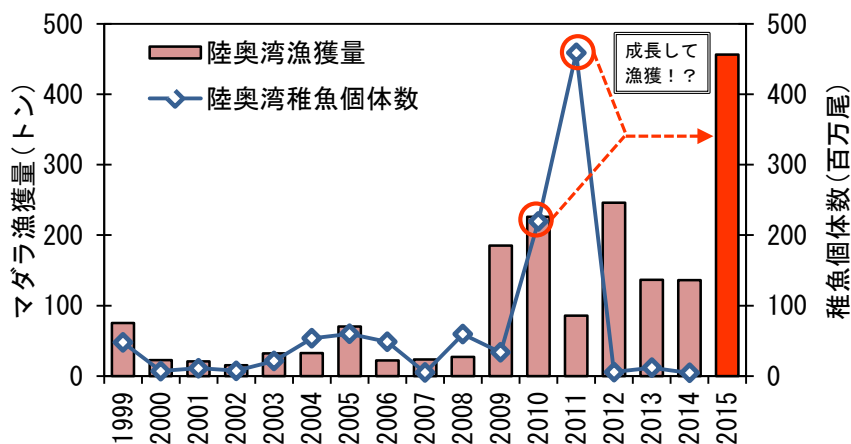


図 陸奥湾におけるマダラ漁期年(前年 11 月～10 月)別漁獲量と稚魚個体数の動向
(漁獲量は水産総合研究所調べ、稚魚個体数は北海道大学高津教授公表値を引用)